

<別紙1>

## 第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社フィールズ

② 施設・事業所情報

名称：クレイヨンピピー	種別：就労継続支援B型	
代表者氏名：犬飼 和輝	定員（利用人数）：20名 （カフェ10名、分場10名）	
所在地：〒242-0017 大和市大和東1-6-11 （分場：大和市大和東3-2-13）		
TEL：046-259-9698	ホームページ：http://tomoni.or.jp	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：2012年 5月 1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 県央福祉会		
職員数	常勤職員：4名 非常勤職員：7名	
専門職員	（専門職の名称） 名 社会福祉士 1名 精神保健福祉士 1名	
施設・設備 の概要	（居室数） （設備等）	
	カフェ：1 作業室：1 休憩室：1 更衣室：1 相談室：1 事務室：1	トイレ3ヶ所 （カフェ：2、分場：1 ／男女兼用）

③ 理念・基本方針

法人理念

1. ソーシャルインクルージョン（共生社会）を目指します。
2. 先駆的で開拓的な事業を展開します。

基本方針

1. 人権尊重とサービスの向上を図ります。
2. インフォームドコンセント及びエンパワーメントを大切にした利用者さん主体の支援を推進します。
3. 地域との共生をめざします。
4. ニーズの多様化と複雑化に対応します。
5. 社会のルールの遵守(コンプライアンス)を徹底します。
6. 説明責任(アカウンタビリティ)を徹底します。
7. 人材の確保・育成のための研修体制を充実します。
8. 柔軟で行動力のある組織統治(ガバナンス)を徹底します。
9. 財務基礎の安定化に努めます。
10. 国際化の対応に取り組みます。
11. 社会貢献活動に積極的に取り組みます。

#### ④施設・事業所の特徴的な取組

- ・地域に根差した就労継続支援B型事業所として、カフェ部門と軽作業部門に2部門より作業を選ぶことができます。
- ・毎月の開所日数は、土曜祝日を含めて25日以上で、利用者の通所機会を増やしています。
- ・カフェ部門では、厨房、接客など飲食店のスキルを身に付けることができ、利用者の生活リズムに合わせて短時間から作業に参画することができます。カレーを中心としたメニューを据え、日替わりプレートや、季節のデザートなど、お客様が飽きない工夫を推進し、地域における居場所としての空間を目指しています。
- ・軽作業部門では、受注先の地域企業との関係も良好で、年々作業量が増えており、工賃アップにつなげています。様々な作業種を提供しながら、利用者の特性に合わせた作業を提供しています。
- ・カフェのメニューやアイデアについては利用者の方も参画し、アンケートやメンバーミーティング等で意見を出す場を設けています。
- ・毎月第4土曜日は、大和市こども青少年課と連動しこども食堂を開催しています。

#### ⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和4年5月16日（契約日）～ 令和4年12月13日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（2019年度）

#### ⑥総評

##### ◇特長や今後期待される点

##### 1) 利用者の自己肯定感を育み、次のステップへつなげています

利用者の意向を聞き取り、支援の方向性を決める場面を意識的に設けています。作業活動を多様化することで選択肢を増やし、利用者は自分で作業内容を決めています。わずかな時間からでも利用を受け入れ可能とし、徐々に利用時間を増やして環境に適應していく利用者もいます。一人ひとりの心身状態の把握に努めて、焦らず無理せず「今できること」を積み重ね、利用者の自己肯定感を育てています。新たなステップに踏み出そうとする利用者への傾聴の姿勢が「グループホームに入りたい」「就労に向けて頑張りたい」の言葉を引き出し、利用者の自立目標に向けて支援しています。

##### 2) 仕事の機会拡大に向けて工夫をこらしています

事業所は、カフェと、ダイレクトメール封入作業やボールペン組み立て、アクセサリー作りなどの軽作業部分に分かれており、利用者の特性や希望に合わせて作業の提供をしています。就労部門職員は軽作業の仕事を開拓し、多くの仕事を受注できています。また、カフェ部門はコロナ禍において近隣のグループホームやデイサービスへの配食を行っています。職員は、利用者の仕事の機会を拡大するための取組を積極的に行っています。

##### 3) 災害時における利用者の安全確保に工夫が期待されます

法人の防災訓練計画に則り、年2回防災訓練を実施しています。消防署による消火器の使い方講習や地震を想定した避難訓練を実施したり、法人の安否確認システムを使い職員に配信練習を行っています。利用者には携帯を所持していない方がいることもあり、適用されていません。今後は、携帯を所持している利用者への配信や伝言ダイヤルの活用など、安否確認の方法を決める取組や、事業所単独ではなく、地域の防災訓練参加への取組が期待されます。

4) 事業所移転を着実に押し進めていくことが期待されます

室内の明るさや壁の色など設備が人の心理面に与える影響は大きく、日中の長時間を過ごす場所として、男女別の休憩室やトイレの設置は急務だと思われます。利用者が自分の働く場所を大切なものとして誇りに感じ、事業所への帰属感が強まることは、通所利用への向き合い方の変化をもたらす可能性もあります。ここ数年、事業所建物の老朽化が課題となっています。現在法人では移転先を探している最中であり、災害時の安全確保やバリアフリーの実現化へも早急の対応が望まれます。事業所の移転プロジェクトが今後の利用者支援のあり方を見直す契機になることが期待されます。

⑦ 第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

施設の老朽化等、事業所が積年抱える課題を改めて把握することができたことに加え、普段表面化しない諸課題に対しての気づきが多くあった。利用者、職員とも満足度は決して高くないと気付かされる結果となった。利用者の本音に迫れるよう、「支援力の向上」は引き続き事業所の目標として据えながら、職員間の伝達不足、意識の浸透水準に差異がないよう心掛けていく。利用者への支援体制に問題はないか再確認するとともに、今回の第三者評価を踏まえて次年度の事業計画策定を行っていきたい。計画に際し、事業所内の利用者、職員と話し合いを重ねながら進めていきたいと考える。

⑧ 第三者評価結果

別紙2のとおり